



コンパクトなまちづくり推進協議会全国研修会

下妻市建設部都市整備課 課長補佐 井上 規

令和元年10月9日～10日下妻市を会場にコンパクトなまちづくり推進協議会全国研修会が開催され、全国から74名のご参加をいただき、講習会・現地視察が行われ、下妻市のまちづくりの取組をご紹介します。

基調講演では筑波大学渡和由准教授からプレイスメイキング（PM）についてご講演をいただき、一人一人が心地よい居場所をつくるPMの概念を国内外の事例を交えてご紹介いただきました。第13回まち交大賞（H30年度）の最優秀賞にあたる国土交通大臣賞を受賞した下妻市砂沼周辺地区都市再生整備計画事業（H24～H28）も、PMの手法を取り入れたことが評価の一つとなっており、随所にその手法を取り入れ、心地よい街の居場所を実装しています。

国土交通省都市局市街地整備課渡辺浩司課長からは、最近のコンパクトシティに関する全国事例や国の動向をご紹介します。特に真新しい取り組みとしてウォーカーブルシティについて詳しい説明がありました。

下妻市からは砂沼周辺地区の取組について、水辺空間に見える化した観光交流センター「さん歩の駅サン・SUNさぬま」や、20年間使われなかった大規模遊休地を活用したにぎわい広場「Waiwaiドームしもつま」の2つのまちづくり拠点を中心に、まち交大賞受賞のカギとなった5つのポイントをご紹介します。事例を見るときにハードに目が行きがちですが、砂沼周辺地区で評価されたのは、人の動きやそこに关わる市民の活躍です。

渡和教授の講演内容、国の動向、下妻市の事例に共通するのは、最近のまちづくりが明らかにハードから人の動き中心にシフトしてきているという事。そして、今後の縮退社会では、公有・民有の有り余るストックをいかに有効活用するかが、まちづくりの戦略には不可欠です。行政は都市の最大の不動産オーナーと考えると、公共ストックをいかに活用し、そこに暮らす人々が豊かになるシーンを創り出せるかが、前例のない少子高齢化・人口減少社会を迎える時代をチャンスに変えるヒントではないでしょうか。



市立図書館映像ホールでの講習会



現地視察 鬼怒川緊急対策プロジェクトの説明



現地視察 Waiwaiドームしもつま



JR 羽鳥駅 東西自由通路が開通しました（小美玉市）

～令和元年 6 月 14 日 開通式～

小美玉市では羽鳥駅を中心とした地域を「陸の交流エリア」と位置づけ、快適で賑わいに満ちた住環境の整備や交流空間の形成を推進しており、その実現のため整備を進めてきた東西自由通路が令和元年6月14日に一部供用開始されました（令和2年2月16日に全面供用開始）。また、東西自由通路には住民参加によって製作したモザイクタイルアートが飾られています。

利用者の利便性向上やバリアフリー化が図られたことにより、更なる地域活性化に寄与するものと期待されます。

■事業期間：平成26年度～令和2年度（社会資本整備総合交付金【都市再生整備計画事業】）

■事業概要：羽鳥駅周辺整備（自由通路、駅前広場、関連道路 等）

■駅舎及び東西自由通路デザインイメージ：

駅名にちなみ鳥が羽ばたく姿を表現し、小美玉市の飛躍への願いが込められている。



お問合せ先 小美玉市都市建設部特定プロジェクト整備課 TEL：0299-48-1111（代）

先進地視察 ～泊まれる公園 INN THE PARK（官民連携の取組み）～

令和2年1月28日、29日の2日間、都市計画関係4団体（茨城県都市計画協会・街路事業促進協議会・公園事業推進協議会・市街地整備促進協議会）共催により、県内市町村の都市計画関係課の職員及び事務局 合計75名にて、静岡県沼津市において、都市計画関係事業の先進地視察を実施しました。

沼津市では、遊休化した民間及び公共の不動産を活用し、リノベーション手法により地域の価値を高める「リノベーションまちづくり」を推進しており、地元の金融機関と連携し、マネジメント型まちづくりファンドを全国第1号で設立するなど、官民連携の先進的な施策を展開されていました。

現地視察では、このファンドを活用して、民間の運営会社（株式会社インザパーク）による整備・運営を行っている「泊まれる公園INN THE PARK」などを視察いたしました。



「INN THE PARK」に関するお問い合わせ先

沼津市 都市計画部 緑地公園課 管理・緑化推進係 担当：風間

TEL：055-934-4795 FAX:055-934-2310 E-mail:ryokuti@city.numazu.lg.jp